

研究テーマ：生徒が主体的に取り組む中で、理解を定着につなげる教科書の活用法

所属 大野見村立大野見中学校
氏名 熊谷 智子
RG JH3

1 研究の背景

大野見村は四万十川の源流の里として知られているように、わが中学校は美しい自然に囲まれている。村内には小学校 2 校、中学校 1 校があり、生徒たちは保育園からほぼ同じメンバーで生活している。大変真面目でまっすぐな心を持った素直な生徒ばかりである。学習面では小学校時より少人数指導が行き届いており、学力も比較的高い。特に英語に関しては、村内在住の ALT が各校を週一度は必ず訪問し、授業や行事にもかなりの頻度で参加するため、生徒たちは中学校入学時から英語を聞いたり簡単な英語で会話をしたり、日常生活に必要な語句をよく理解している。

しかし、狭い村内の人間関係で生活してきたため自分からすすんで自己表現できる生徒が極端に少なく、特に中学校に入り思春期を迎え、対人関係で苦難を抱える生徒が多いのが実情である。また小学校での英語教育のおかげでかなりの聞き取る力がついており、また上手な発音で読んだり話したりできるが、書くことが苦手である。書くことが苦手なためにテストで点数が取れなかったり、提出物が出せず、英語を苦痛に思う生徒もいる。そのため、ひとりひとりが開放され楽しくなるような、かつ理解と定着を図れるような授業を行いたい。

2 リサーチクエスト

生徒が主体的に取り組む中で、理解を定着につなげる教科書の活用法

3 予備調査英語力を示すデータ

CRT の結果では下記のように分析される。

観点別評価・・・関心・意欲・態度、表現の能力は A 評価がやや少ないが C 評価も相当少ない。理解能力、知識・理解は A 評価が多く、C 評価が少ない。

全観点評定・・・評定 4・3 に全員が含まれ、4 が多い。(5, 2, 1 はない)

3 観点評定・・・全観点評定ではなかった 5・2 がやや少数だが発生する。

大領域得点率・・・全観点とも全国比 100 を上回る。

得点率・・・全国に比較してやや高い。

4 仮説の設定**(1) 仮説**

仮説 1 予習(復習)が理解を助ける。

仮説 2 単語の読み方や意味を理解できていないことが音読を難しくさせ、また全体の理解を難しくする。

仮説 3 音読により理解を深めるため、繰り返し音読する機会の設定が必要。

(2) 実践の方法

- 単語の読み方と意味の定着のためにゲーム(カルタ取り)を行う。
- 生徒同士をある程度距離をおいて、大きな声で音読しないと聞こえないように縦の列の 3～4 人で一つのグループにし、音読練習をする。
- PC の効果的な活用。

5 計画の実践

7月11日 The Emerald Lizard

7月14日 The Emerald Lizard

単語の読みと意味の定着のためカルタ取りの実践
教科書本文の読みの練習を列ごとにリレーで音読

10月16日 Chris and the Puppets
予習の徹底 リーディングの時間をさらに確保
10月20日 Chris and the Puppets
PCの新しい活用法

6 実践の結果

7月2度目の授業では、子どもたちはPCに興味を抱き、いろいろな発想を持ったことで、「本当の話はどのようになっているんだろう。早く読んでみたい。」と感じた生徒が多かった。また実際に英文を読みこんでいく中でも、集中し興味を失わず読みこめた様子であった。また、単語の定着をカルタ取りで図ったことで、新鮮な気持ちで楽しく取り組み、その後の活動も活発に行えた。教科書の読みをリレー式に読んだことでは、自分の席から離れた生徒にも聞こえるように大きな声で読もうとしたことが、読みと英文の内容理解につながった様子であった。

10月1度目の授業では予習を徹底させ、リーディングの時間をさらに確保した。予習では教科書本文を写すこと、新出単語や語句の意味調べをノートに行かせた。入学当初より教科書で学習をするときには予習をしてくるように指導していたので、当日も予習を忘れてきた生徒が数名しかおらず、スムーズに授業をすることが出来た。単語の意味確認を読み取りの前に行うのだが、前回の授業よりも単語にかける時間が短くてすんだ。予習の成果と思われた。また音読の前に黙読を入れ、その際読めない部分を確認させた上で一斉練習そして音読練習を行った。音読練習では2人組で読めない部分がないように、単語一語一語の読みを確認させ、その後リレー練習、制限時間を決めて何度も通し読みをさせた。最初は声も小さく、単語一語一語を確実に読もうとしていた生徒たちであったが、制限時間内で何度も読んだときはかなり大きな声で、またリンキングや強弱などを自然に身に付けて読めていた生徒もいた。授業の最後に本文の内容に関してTFテストを行ったが、自信を持って自分の答えを発表できた生徒が一学期よりも多かった。何度も読んだことで内容理解も深まったように思われた。

ここまでの実践ではPCを「読み取り前に見て、どのような話になるか想像する」ために主に使っていた。そこで10月2度目の授業では読み取り前に内容を想像させ、その後数枚ある絵を話の流れがどうなるか想像で並べ替えさせた。一人一人違った考えをもっており、生徒の想像力の豊かさに改めて感心した。その活動後、前回と同じような流れで授業を進めた。PCで話の流れを想像したことで、自分の想像と実際の話が違っていたため興味を持って読んでいけた様子であった。また「友達の考えを聞いてよかった」「ちゃんの想像のお話がおもしろかった」と、お互いの考えを交流できたことに開放感と喜びを感じた生徒もかなりおり、全員が授業が楽しかった、よくわかったと言っていた。

7 結果の検証

7月1度目の授業では生徒たちは自分の英語力に自信を持っておらず、積極的に参加できる生徒が大変少なく、受身の授業であった。音読を念入りに行うことが自信につながり、カルタ取りやペアワーク、PCの活用でリラックスして自分をだせるようになった生徒が増えたのではないかと思われる。

8 成果と今後の課題

生徒は7月には授業中50分を通しての集中がなかなか続かない様子であり、また自信がない様子であったが、実践を重ねるにしたがって、自信が生まれてきた生徒も多くなり、興味をもって50分の授業にある程度集中し、全体的に積極的になった。また自分の考えを学級で表現することに喜びを感じ、学級でもリラックスした状態で授業できるようになった。

自分自身はこの取り組みを通して、生徒に自信をつける、家庭学習、授業改善のための教師の積極的な工夫と向上心、の大切さを再認識した。生徒に自信をつけるためには生徒の興味や関心、得意なことを知ったうえで、生徒が自分自身の力を認められる場を積極的に設定する必要がある。授業中に自信を持って、積極的に参加するためには予習(家庭学習)も大切である。毎回の授業で新鮮さを失わないように、馴れ合いで授業をすることがないように、常に「生徒と一緒に授業を楽しむ」ための授業作りを考え、実践していきたい。